選・坊城 俊樹

# 山門を入るや自づと秋の声

北海道 大野 節子

じること。ましてや山門に入ればそのすべての音に秋を感じ 評 ていたような気がするのである。 ざるを得ない。あたかも、 「秋の声」とは、秋になって様々なものに秋の音色を感 作者に向かって秋の声が待ち構え

# 母を乗せ父に引かるる瓜の馬

鳥取県 眞山 博充

乗っている。そして、その馬を引いているのは、おそらくそ 評 の前に亡くなった父なのだと思った。どこまでも深い哀愁に 盂蘭盆の時 の「瓜の馬」。 その馬上には亡くなった母が

彩られた句と思う。

### ◆光へと螺旋階段夏終る ◆引く波を追ひかける子の晩夏かな

◆ただならぬ赤き火星や熱帯夜

噴水の水交差する蒼き空

鬼灯をならす少女の片えくぼ

◆大屋根の片蔭多き城下町

埼玉県 埼玉県 東京都 千葉県 長野県 東京都

日尾野安子

橋本 野村 甲斐 森山 友野

永子

信廣

勇

◆本堂の東西南北施餓鬼幡

◆道草のケンケンパーや青田風

◆海女の墓波引き寄せて曼珠沙華

神奈川県 佐野 勇

◆打ち水や褪せし暖簾の奥の声

兵庫県

内藤

昭子

福島県 和歌山県 大槻 田﨑よし子

弘

\*選者吟

## 享年は二十一歳蝉時雨

俊 樹

#### \*作句小見

と面識はないが、まだ若くして亡くなった青年の顔が思われ に対する鎮魂の歌なのだと思った。 この句の二十一歳とは実は私の伯父にあたる人。むろん私 その刹那にその墓を取り巻く蝉たちの声が聞こえた。彼

瞳

昌子

選

### りけり平成の世に 獲物をば「授かり物」と呼び慣らす猟 島根県 師あ

自ずと敬虔な思いが生じるのだろう。神からの授かり物とし いつの世でもかくありたいの思いが結句には籠められる。 て戴く命は必要最小限なはずである。恭しく戴くのである。 鳥獣の命を奪って生活の糧とする猟師の仕事。そこには

#### 盂蘭盆のちちはは眠れる墓にきて日傘交わ して妻と香焚く 福島県 弘

評 前に香を手向けておられる点に沁々とした情趣がある。 ご夫婦が互いに日傘を差しかけ合いながら、ご両親の墓 お盆の墓参は素材として珍しいものではないが、 炎天下

◆炎天を声たくましき老鶯に励まされつつ作務すこしする 大阪府 高畑

知らぬ子におばあちゃんと呼ばれた日孫もないのにワク 秋田県 小松

ワクしたよ

▼亡き夫がタノムと書きし愛猫の今も夜更けに声引きて鳴 吹きさかるアガパンサスのはなびらは雨に濡れても消え 福岡県

山口県 濱田

**》初生りのニガウリー個穫りしあとの空しさは何炎暑は続** 前田あつ子

子らの眼に強い母だと映るらし強いふりして暮らして居 兵庫県

ます 須田 英子

。雑草のはびこる更地に咲くカンナ遠き日の姑をふと思い

早苗田に声を蒔くがにほととぎす鳴きゐる梅雨のあめ上 出す 山形県 斉藤

りきて 島根県 門脇

**>さまざまに目を引くやうに服飾る店に放てば君は蝶蝶だ** 

◆野良猫は餌くれる人定めおり我の足音で一斉に揃う 秋田県 後藤 金子 幸子

\*選者詠

セロファンに当たる光が風に揺れ白き炎を のぼらせている

#### \*作歌小見

いのに」に拠ってワクワクの心情に深みが生まれました。 的に暗示していて楽しいです。小松さんの四句目の「孫もな しますが、「雨に濡れても消えない」で梅雨時の花と、 三吉さんのアガパンサスの花の喩えは花火のようでも成立





Ш 霜月の夜長に坐禅をしておりますと、 のせせらぎが、天地の恵みを知らせるとともに、体中に染み 門前をそろそろと流れる

りますと、それぞれのお堂は アッという間にまるで蓑を被ったす。掛け声を交わしながら皆で力を合わせて一心に作務をしてお ようになります。 務」を致します。 丸太で組んだ骨組みに、 竹簾をかけていく Ò

留めたいものでございます。 あってこそ、 援をいただきまして、無事に冬の修行をつとめることができました。 ちで壊れてしまいました。それでも、 昨年の冬は、屋根まで届く大雪で、窓ガラスや雨どいがあ 目に見えず、 日々の生活修行が出来ているのだなぁ、 手に触れずとも、多くの皆さま方のお陰さまが 多くの皆さま方の篤いご支

になくてはならないというのではありません。もちろん、 これは、冬にストーブを焚き、夏にエアコンを付けるのが坐禅 さて、道元禅師さまがお示しになられました『正法眼蔵』 の中に、「冬暖夏涼をその術とせり」とあります。 それも 坐

ます。 坐禅修行をするべし。ということだと心に留めているものであり 安らかではありましょうが。 くても慎みを忘れない。偏ることなく、 寒い時は着る、 暑い時は脱ぐ、泣いたら涙を拭いて、調子が良 いつもつとめて清々しく

れの雪囲いにして、坐禅修行したいと願うものであります。 私たちを支えてくださる、お一人お一人のまごころを、





## 御移転記念日

月五日は、

總持寺が今から一〇七年前の明治四十四

一一)年に石川県から現在地に移転し、遷祖式が盛大に挙行され

た日です。現在では、三日から五日までを御移転記念の期間とし、

毎年様々な記念行持が行われています。

が、 の血のにじむようなご労苦に思いを馳せ、報恩感謝の念を表わす 御移転記念日がお祝いの日であることはもちろんであります 同時に大事業を成し遂げた中興・石川禅師はじめ多くの先

ことも忘れてはならないことです。 「檀信徒の集い」が行われ、坐禅や写経・法話

の総調経 寺」が開催されます。四日は万灯供養や「門前シンポジウム」が 精進料理教室が開かれます。翌三日は「つるみ夢ひろばイン總持 二日は (参加者ご先祖供養) に加え、本年は五十嵐典座

も一段と引き締まってきます。 といよいよ十二月。 瑩山禅師 ションを行います。最終日の五日は報恩摂心を修行いたします。 行われ、 十一月はこの他に冬安居「制中五則」や「太祖降誕会」(御開 の御生誕を祝す法要) 地元の方々と将来の鶴見や總持寺についてディスカ 臘八摂心の時節となり、修行僧たちの顔つき が勤まりますが、これらが終わる Ш

・朝課 による

で